

ゴリラに学ぶ「人間らしさ」 2

NHKラジオ 明日への言葉 2018年6月30日

いほど集団の平均サイズが大きい事が判った。人間も言葉を喋っていない時代(200万年前から40万年前にかけて)集団が徐々に大きくなっていった、脳が増大したということが推測できるようになりました。猿は集団の中でだれが強か、誰が弱いか常に頭に入れておかないと適当な振る舞いはできない。仲間の数が増えると複雑になり記憶する量が増える、それが脳を大きくする原因だったと思われる。(ダンバー説)ダンバーは人間の脳の大きさを推定して、脳に匹敵する当時の人間の集団の平均値を求めた。

脳が大きくなっていない時代の脳、350万年前では500cc以下、ゴリラの集団サイズに匹敵する、10~20人位。600ccを越えた頃の集団は30人位。1400ccではどの位の集団で生きるのに適しているか計算してみると150人位。

1万5000年前に我々は農耕牧畜を始めました。それまでは狩猟採集、自然の恵みだけで過ごしてきた。現在でもそういった生活は生きていて移動生活をしているが、150人ぐらいの集団になっている。

人間の脳の大きさはず一つと狩猟採集生活に適するような形として作られてきて、40万年前には完成されてしまっていて、それから劇的にコミュニケーションの様式がかわったとしても脳は大きくなっていないということかもしれません。脳の大きさが決まってしまうということ是非常重要的で、人間が信頼できる人々の数はせいぜい150人ぐらいということかも知れないということです。我々はインターネット、スマホなどで膨大な数の人とやりとりしているが、そのなかで本当に信頼できる人達はどのくらいなのか、何千人、何万人に到っているのだろうか。顔の浮かぶ人、何か体験として身体に埋め込まれた人達、自分が困った時ににも疑わずに相談できる人は150人を越えない数なのではないかと思えるわけです。言葉によって我々の心が作られているような気がするが、実はそうではなくて身体が反応するということが人間的な特徴なのではないかと思える訳です。

食物を分けあって食べる、共食という行為、人間が二足歩行した時に顕著になり始めた行動だと思えます。他の霊長類は運んで分けあって食べると言うことはしない。(人間だけがする)人間を信用すると言う事、他の種は自分しか信用しない。信用しているから他の人間のものも食べる、現代はシステム化して当たり前だと思っているが、当たり前ではない。我々は信用の上に社会を築いている。信用できる人の数はわれわれの身体では150人を越えないという事を覚えておいてください。

足歩行によって手が自由になり、色んな副産物が生まれました。人間は成長の遅い子供を持ちながら(類人猿から引き継いだ遺産)、肉食獣に囲まれて生き延びるために人為的に多産に、毎年子供を産むようになった。

オランウータンは7年間乳を吸って育つ、ゴリラは3~4年、チンパンジーは5年。

離乳した時には永久歯が生えて大人と同じ食べ物が食べられる。

人間は本来6年乳を吸ってもいいが、1年で離乳するようになってしまった。

そして直ぐ子供が産めるようになり多産の道をあゆんできた。子育てに老年期の人が大いに手を貸してくれたからこそ、沢山の子供達が生き延びることができた。

今は少子高齢化社会になり人類の進化にとっては全く新しい出来事で、これからそれに向けて社会を変えていかなくてはいけない。

何故人間は高齢になる一つと前に子供を産むのをやめてしまうのか、何故難産になってきたのか。

200万年前の脳が大きくなり初めて、予め脳の大きな子を産むのか、小さな頭の子を産んで生後脳を大きくするのか、選択せざるを得なくなった。

二足歩行をしてしまったので骨盤の形が変形してしまった。産道を大きくさせずに小さな子を産んで急速にその脳を発達させる道を選んだ。

ゴリラの赤ちゃんの脳は人間の脳と変わらない大きさで生まれて来る。

ゴリラの赤ちゃんの脳は5年間で2倍になる。

人間の赤ちゃんの脳は1年間で2倍になります。

ゴリラの赤ちゃんはガリガリで1.6kg位です。

人間は3kg位で体脂肪率が全然ゴリラと違って、ゴリラの体脂肪率は5%以下、人間の赤ちゃんは15~25%あります。

脳を急速に育てるためです。(脳は脂肪)

離乳が早い分、体脂肪が補ってくれる。

人間の赤ちゃんが共同保育されるように生まれてくる。

ゴリラの赤ちゃんは全然泣かないで抱かれて育っていきます。

人間の赤ちゃんは本当にうるさい、お母さんが赤ちゃんを手放すから泣くわけで、自己主張、自分の機嫌の悪さを判ってもらえないから、誰にでも判るように泣くわけです。

あやす時に赤ちゃんにかかるトーンは民族文化を越えて人類同じ性質を持っていると言われます。

あやす時にトーンが普段より高く、繰り返しが多いという特徴を持っている。だれにも習わなくても出来る。

その声に安心して赤ちゃんはにっこりほほ笑む、これがみんなだまされる、赤ちゃんに奉仕する。人間の赤ちゃんは周りの人を自分を育ててくれるように、ひき込む特徴を持って生れて来る、それがゴリラの赤ちゃんと違う。人間は食べる行為を変え、子供を脂肪に包まれた頭でっかちになるような赤ちゃんを大勢作らなくてはならなくなったゆえに、

共同で保育をせざるを得なくなって、それが人間の社会を大きくした原因だと思えます。

おたがいが影響し合って社会脳として脳が大きくなったと思えます。

言葉ではない身体でのコミュニケーションで我々は社会をもう一度作り直さないといけない、そういう身体を我々はしているという事を頭に入れて下さい、これはゴリラからの提言です。